

第6回 笠間市「道の駅」整備推進協議会議事要旨

【日時】2018年7月25日14:20～

【場所】地域交流センターともべ「Tomoa」C会議室

【出席者】

(1) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 委員

立教大学 観光学部 教授・観光学科長

観光研究所所長

東徹

株式会社パーティー・フー代表取締役

(国土交通省道路中期計画有識者メンバー)

石井みな子

食空間コーディネーター

(文教大学 非常勤講師)

田淵弘子

武蔵野美術大学 基礎デザイン学科 非常勤講師

白濱力

オフィスフレール代表 フードアドバイザー

(笠間市ブランディングアドバイザー)

藤原浩

茨城交通株式会社 執行役員運輸部長

飛田潔

常陽銀行友部支店長

小松崎徹

常陸農業協同組合 代表理事専務

森貞男

常陸農業協同組合 笠間地区直売所生産部会部会長

柴田良一

一般社団法人 笠間観光協会会長

本間敬

(元) 笠間市区長会会長

大津廣司

笠間アグリビジネスネットワーク協議会 会長

永田良夫

笠間市市議会議員

小松崎均

笠間市市議会議員

橋本良一

笠間市副市長

近藤慶一

笠間市市長公室長

塩畑正志

笠間市総務部長

中村公彦

笠間市産業経済部長

古谷茂則

笠間市都市建設部長

大森満

笠間市農業公社事務局長

友部邦男

(以上敬称略)

(2) 専門家 (アドバイザー)

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所計画課	課長	春山大樹 (欠席)
国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所計画課	建設専門官	會澤浩志
茨城県政策企画部地域振興課	課長	吉富耕治
茨城県政策企画部地域振興課	副参事	植田朋弘 (欠席)
茨城県政策企画部地域振興課	主事	渡邊修一郎 (欠席)
茨城県営業戦略部観光物産課	主事	中村智博
茨城県農林水産部農業政策課	課長補佐	加藤俊一 (欠席)
茨城県農林水産部農地局農村計画課	係長	渡邊正幸 (欠席)
茨城県土木部道路維持課	主査	伊藤豪人 (欠席)
茨城県土木部道路維持課	主事	錦織大樹
茨城県土木部道路維持課	主事	櫻井理恵

(以上敬称略)

(3) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 事務局

笠間市産業経済部道の駅整備推進課	課長	斎藤直樹
笠間市産業経済部道の駅整備推進課	課長補佐	田中博
笠間市産業経済部道の駅整備推進課	係長	安齋岳美
笠間市産業経済部道の駅整備推進課	主任	打越久勝
笠間市産業経済部道の駅整備推進課	臨職	埴博子
三井共同建設コンサルタント株式会社		芳賀章
三井共同建設コンサルタント株式会社		江内谷義信
三井共同建設コンサルタント株式会社		松井陽造
三井共同建設コンサルタント株式会社		高橋恵一
三井共同建設コンサルタント株式会社		岡部義諒
三井共同建設コンサルタント株式会社		山田沙知
三井共同建設コンサルタント株式会社		森田舞
株式会社計画・環境建築		杉本洋文
株式会社計画・環境建築		木崎美帆

【議事】

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

(1) 意見整理と方向性について

[事務局より「第5回笠間市「道の駅」整備協議会の意見要旨とその方向性」について説明。]

(東会長)

- ・ 意見整理と方向性について質問・意見はあるか。

[特に意見無し。]

(2) 基本計画について

[事務局より「笠間市「道の駅」基本計画（案）」について説明。]

(東会長)

- ・ 運営母体は第三セクターであるが、P. 32で示している非効率（デメリット）を容認するというものではない。
- ・ この委員会で検討してきた議論を十分に活かして頂きたいという意味も込めて、この場には民間業者に運営を任せるということは不適當である。オープン当初は市が責任を持って、これまでの議論を十分に活かして頂きたいと考えている。
- ・ オープン3年を目途に、あるいは5年を限度に運営母体を民間業者へ切り替えて頂きたい。
- ・ 基本計画（案）について質問・意見はあるか。

(白濱委員)

- ・ P28「7. 情報発信」の運営について、人が介して笠間の魅力を伝える等、アテンドする機能はあるか。
- ・ 道の駅が市内を周遊する観光バスの出発点になると良い。またバスの割引・格安チケットの販売も併せて行うと良い。

(東会長)

- ・ 観光計画策定の検討は、道の駅ができることを前提として議論が進められている。道の駅に車を停めてそれぞれの目的の場所へ行くことが出来るような仕組みがあってもいいと云う意見が出ている。

(事務局)

- ・ 栗ミュージアム、笠間ミュージアム、情報発信施設は、本施設のコネプトを示す場所である。
- ・ 例えは、栗ミュージアムに人を配置し、情報発信施設とカウンター等を共有しながらコンシェルジュのようなサービスを提供する方法や、高齢者のボランティアガイドを配置する方法も考えられる。
- ・ いずれにしる、この3つの空間を共有して使用する形になるだろう。

(小松崎徹委員)

- ・ 運営母体は第三セクターとなっているが、黒字経営で運営できる体制をぜひとも検討して頂きたい。

(藤原委員)

- ・ 基本計画が固まってきたことを喜ばしく思う。
- ・ 道の駅の建物が立派であっても、来訪者の印象に残るのは道の駅の働き手(接客)である。コンビニエンスストアの接客が一番良かったと言われる道の駅では良くない。
- ・ 道の駅づくりというのは、ここで働く方々が笠間を誇りに思い、笠間の広報大使のような役割を担うということを、教育プログラムとして作り込んで頂きたい。人間教育には建物と同じくらいの力量をかけるべきである。
- ・ 従業員等の接客に対して、チェック機能が必要である。お客様からの声を募集し、それらを反映することが大切である。

(石井副会長)

- ・ 事業のスケジュールの開業準備はとても大切である。笠間ミュージアム、栗ミュージアムの内容の検討を早い段階から行う必要がある。また、新たな栗商品を開発するために、女性を中心とした「栗の研究会」を立ち上げ、早急に検討する必要がある。

(事務局)

- ・ これからはローカルが重要な時代になってくる。笠間の個性を出していきたい。
- ・ 人、物、事、にどうやって笠間の個性をリンクさせるかが大事である。
- ・ 例えは、笠間で暮らすお母さんの優しさなどがブラッシュアップされたものが、笠間の道の駅のスタイルになると良い。

(柴田委員)

- ・ 事業スケジュールの「管理運営体制の構築」があるが、テナントの選定を早く行う必要がある。オープンに向けての準備が遅れる可能性がある。

(小松崎均委員)

- ・ 農産物直売所では、笠間の農家の収入を向上させ、それが笠間の魅力向上に繋がるものだと理解している。
- ・ 現在面積が400㎡で算定されており、販売金額が2～3億円となっているが、みどりの風では268㎡の面積で販売金額がおよそ3億3千円ほどである。そこから換算すると、販売金額は5億円を想定しても良いのではないか。

(森委員)

- ・ 笠間の道の駅は、みどりの風より人が集まると予想している。
- ・ P. 17「直売所当たりの経営規模（販売金額規模別）」の表で示されている1段上でも良いと思う。

(事務局)

- ・ P. 17「直売所当たりの経営規模（販売金額規模別）」の表については、売り場面積を算定するために参考として示しているものである。
- ・ 売上金額については、100㎡で年間1億円という平均値がある。農産物直売所と物販施設の面積を合わせると500㎡になり、年間5億円の売り上げを見込めると考えている。

(永田委員)

- ・ 農産物直売所の売り場面積は、400㎡で良いと考えている。
- ・ 将来的には売り場面積が増築できるスペースを、あらかじめ確保しておいても良いと思う。

(柴田委員)

- ・ 売り場面積が広がると、商品を増やす必要もある。
- ・ 笠間の農家は、定年退職後始める方が多い。若い後継者も増やしていく必要を感じている。若い人が農業をやりたいと思えるような、雰囲気や農産物直売所を出していければいいと思う。そのためには、農産物直売所では、できるだけ地元のを販売していきたいと考えている。

(東会長)

- ・ 家庭菜園の野菜を販売している道の駅もある。90%は地元の野菜を販売し、商品がなければ市場から仕入れることはせずに、販売しないという覚悟も必要である。

(森委員)

- ・ 来訪者にまた来たいと思ってもらえるような道の駅になるためには、経営者の選択は重要である。人を育てて、心でもてなすことを忘れてはいけない。

(藤原委員)

- ・ オープンに向けて、道の駅の宣伝になるような動画を作って欲しい。おしつけがましいCMではなく、1分以内でコストをかけずに製作して欲しい。例えば、市長や農家、笠間焼の作家、笠間に暮らす子供達などに出演してもらい、みんなで手を振っているような、明るい動画にしてほしい。ドローンを使って、道の駅の全貌が見えるような映像があっても良い。
- ・ プロモーションの計画が必要である。

(森委員)

- ・ JA常陸として、地元の商品の納品や農産品の確保など責任を持って関わっていきたくと考えている。

(東委員)

- ・ 農家達で「笠間でいいものを作る」という適度な競争が生まれるとよい。

(近藤委員)

- ・ 人材の確保・教育は非常に重要である。駅長・従業員を含めた人材育成と、農産品等の売り物づくりをそれぞれ取組んでいく必要がある。
- ・ また、設計が始まる段階でテナントの意見も十分に反映して進めていく必要がある。

(東会長)

- ・ この場で議論されてきた「道の駅とは何か」については、地域のゲートウェイやショールであり、それを通じて市の地域振興に繋がり、様々な人が参画できる機会を創出するということである。
- ・ 笠間への来訪者は、笠間（産地）にきた意味を知れる場所になってほしい、笠間で暮らす人には、自分達が良いまちに住んでいると再認識出来るような道の駅になって欲しいと考えている。そのためには様々な人が関わり道の駅を育てていく必要がある。

5. 閉会

以上